

皆様おはようございます。

台風が通過するにあたり、被害が出ませんようにと祈ります。梅雨の半ば、じめじめする日もありますが、皆様お元気にお過ごしでしたか。

今日はヘブル書の2章です。

先週の1章では、何にもなぞらえることのできない、イエスキリストの素晴らしさが記してありました。

1:2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

この終わりの時、いよいよこの終わりの時。預言者たちがかつては遣わされていましたが、時至ってついに御子が遣わされ、御子によって神様は私たちに語られました。

御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれました。この神の御子、イエスキリストを、神様の栄光の輝きを表し、神の本質の真の姿の確かな現れであり、力ある言葉の現れと、罪のきよめのわざとにより、私たちのためにどんなに大きなことをして下さったかが語られました。

2章でもこの御子による救いの素晴らしさが引き続き語られます。

2:1 こういうわけだから、わたしたちは聞かされていることを、いっそう強く心に留めねばならない。そうでないと、おし流されてしまう。

押し流そう、風化させ、忘れさせ、指から指輪がいつの間にかポロリと音もたてずに落ちてしまうように、押し流して亡きものにしようとする悪の企てが実に多いのです。ですから、私たちは聞かされていることを一層強く心に留め、押し流されまい、大切なものを失うまい、忘れまいとして意識し続ける必要があります。

2:2 というのは、御使たちをとおして語られた御言が効力を持ち、あらゆる罪過と不従順とに対して正当な報いが加えられたとすれば、…

この当時の人たちは、神の御言葉は天使たちによって人にもたらされると信じていました。

天使たちは神の被造物であり、人と同じく主に仕えるものです。天使は「イエスのあかしびとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。」と黙示録19章にあります。

どのように伝わったとしても、その伝わった神様の御言葉は真実であり、人のあらゆる罪過と不従順のゆえには正当な報いが与えられるということが記してあります。

この刑罰である報いを受けるということは、至極正当なことです。人は過ちを犯したら、その報いを向けなければならないのです。しかし、私たちには当然の報いを超えた神様の恵みがあるのです。

2:3 わたしたちは、こんなに尊い救いをなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救いは、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、

2:4 さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。

「こんなに尊い救い」のゆえに、私たちは報いを逃れることが出来るのです。

この救いは初め主のよって語られました。主にあって初めて語られました。そして主から聞いた人づてに私たちも聞きました。そして神様は「しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしを」なさいました。

2:5 いったい、神は、わたしたちがここで語っているきたるべき世界を、御使たちに服従させることは、なさらなかった。

2:6 聖書はある箇所、こうあかししている、／「人間が何者だから、／これを御心に留められるのだろうか。人の子が何者だから、／これをかえりみられるのだろうか。

人が何者だから、ここまでわたしたちは愛され、守られ、御子の命の犠牲を持ってまで、罪赦され、導いていただけるのでしょうか。

2:7 あなたは、しばらくの間、／彼を御使たちよりも低い者となし、／栄光とほまれとを冠として彼に与え、

2:8 万物をその足の下に服従させて下さった。「万物を彼に服従させて下さった」という以上、服従しないものは、何ひとつ残されていないはずである。しかし、今もなお万物が彼に服従している事実を、わたしたちは見ていない。

神様は御子イエス様を、しばらくの間御使いたちよりも低いものとなされ、そののちには「栄光とほまれとを冠として彼に与え、万物をその足の下に服従させて下さった」とありますが、「今もなお万物が彼に服従している事実を、わたしたちは見ていない」と書かれています。主は復活され、天に帰られましたが、終わりの時はまだ来ていません。終わりの時が来て、裁きがあり、ついに不従順のものとなってしまった万物は御子の足の下に服従する時が来ます。

2:9 ただ、「しばらくの間、御使たちよりも低い者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、栄光とほまれとを冠として与えられたのを見る。それは、彼が神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれるためであった。

2:10 なぜなら、万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであったからである。

イエス様は、「神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれ」ました。御使いたちよりも低いものとされたとありますが、これは御子が社交辞令として御使いを少し高く上げたということではなくて、死の苦しみをなめること、すべての人のために死を味わうこと、苦難を通して救いを全うするということでした。

「万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであった」という言葉は衝撃的です。

万物の帰すべき方。万物を造られた方。すなわち神様が、もっと言えばイエス様もこの神様ご自身に含まれるのですが、「多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであった」

多くの子ら、つまり神の作品である多くの人々を導くために、完全な者とするために、苦難を通して、救いのリーダー、先駆者、創始者、原作者である御子がそれにあたるということは誠にイエス様にふさわしいということが記されています。

イエス様は負債を生じさせたものがその穴埋めをせよとは終わりの時には語られませんでした。「万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであった」のです。

2:11 実に、きよめるかたも、きよめられる者たちも、皆ひとりのかたから出ている。それ

ゆえに主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない。

2:12 すなわち、／「わたしは、御名をわたしの兄弟たちに告げ知らせ、／教会の中で、あなたをほめ歌おう」／と言い、

2:13 また、／「わたしは、彼により頼む」、／また、／「見よ、わたしと、神がわたしに賜った子らとは」と言われた。

2:14 このように、子たちは血と肉とに共にあずかっているのです、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、

2:15 死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを、解き放つためである。

きよめる者も、きよめられる者たちも、皆一人の方から出ている。それは生きていらっしゃる神様にあって一つということです。神様は罪人とご自分との間にいかなる障壁を造らず、愛する御子をもってその障壁を乗り越えさせ、主により贖いをなされ、私たちがより頼むべきお方を示してくださいました。

死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、

2:15 死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを、解き放つためである。

ローマ 6:20 あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。

6:21 その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。

6:22 しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

コロサイ 1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

2:16 確かに、彼は天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた。

2:17 そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をさが

なうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。

贖いを成し遂げるために、身代わりとなるために、主はあらゆる点で人と同じにならなければなりませんでした。

神様はご自身の民を臣下と、弟子と、隷属すべき民と呼ぶこともできたでしょうが、神様は私たちをイエス様にある兄弟として下さいました。

イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司です。

ピリピ 2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

2:18 主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。

主がお苦しみを受けなければ、試練の中にあるものの心情を理解することが出来ないという意味ではなく、私たちの側から、私たちとおなじせ、弱さをもって人としての方が、苦しまれ、試練に合わせ、痛めつけられ、死に至ったお方ならば、私たちと同じように、それ以

上に苦しみをお受けになられたお方ならば、私たちの痛みをわかってくださるだろうと考えるうちにあって、主はまさにあらゆる試練と苦難を身に味わわれたので、試練中にある人を一人も漏らさずに助けることが出来ると聖書は語ります。

2:10 「なぜなら、万物の帰すべきかた、万物を造られたかたが、多くの子らを栄光に導くのに、彼らの救の君を、苦難をとおして全うされたのは、彼にふさわしいことであった」このことを、どう理解するのか。糸孝樹方、正しく、輝きに満ちているお方が、どうして私たちの不法と不従順の釣り合わないくびきを担う必要があるのか。お門違いで、決してふさわしからざることであると私たちは思います。

私たちにとっても、私たちでさえ、自分の関わらざることのゆえにとぼっちりを食らったりしたら、ただただそれは不快なる、不条理の出来事としか思えないのではないのでしょうか。しかしイエス様はその人間の罪の深みの内容には一切関係のないお方、むしろ人の反逆の被害者のような方であるにもかかわらず、イエス様は進んで、神の恵みのゆえに罪の身代わりとなりて人を解放し、人が自分でその関係を断ち切ることのできない悪魔を、イエス様の死によって滅ぼし、2:15 「死の恐怖のために一生涯、奴隷となっていた者たちを、解き放」ってくださいました。

2:3 わたしたちは、こんなに尊い救をなおざりにしては、どうして報いをのがれることができようか。この救は、初め主によって語られたものであって、聞いた人々からわたしたちにあかしされ、

2:4 さらに神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざとにより、また、御旨に従い聖霊を各自に賜うことによって、あかしをされたのである。

ローマ 6:20 あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。

6:21 その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。

6:22 しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

コロサイ 1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民

である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。すべての違犯や不従順により、当然な罰を受けるべきところ、「多くの子らを栄光へと導くために、彼らの救いの創始者を数々の苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の目標であり源である方に、ふさわしいことであった」との神様の恵みに感謝します。「これほど大きな救いに対してむとんちゃくでいて、どうして罰を逃れることができますよう」とありますように、主イエス様が身を低くして、苦しまれ、死の苦しみを味わわれたのは私たちが死の恐怖と奴隷の状態から解放するためですから、本当にありがとうございます。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。